

ヤブガラシに関して

有限会社 サガミ消毒化学 中 島 周 治

§ はじめに

私たち神奈川県ベストコントロール協会では、多種多様な害虫・害獣・害鳥果てはウイルス除去といった様々な衛生事業を取り扱っています。

ただこうした各害虫などに対して駆除といった面での取り組みには万全ですが、予防といった面では充実していません。

というのも、駆除業務は私たちの実力がいかんなく発揮されますが、予防というものは被害にあわれている（この場合は神奈川県にお住いの市井の方々の）、取り組み次第というところがあるからです。

ただそれでも駆除するとき「今後このような被害にあわないためにはどうすればいいのか？」と尋ねられることは多いかと思われま

す。お客様の中には、害虫の被害に関して具体的な予防が分からなくて、その知識を欲している人は多いのでしょう。

そういった理由から、本稿ではひとつの具体的な例としてハチ対策としての予防知識という事でヤブガラシという植物についての説明と、この植物とハチ予防に関する事例を書きたいと思いま



§ ヤブガラシとは

ヤブガラシはブドウ科に属するつる性植物で、5月ごろから地下茎から芽を出して巻きひげ状のつるを伸ばしながら他の植物又は柵やフェンスといった人工物に絡みつくように繁茂します。

この繁茂する勢いは強く、絡まれた植物は日光が当たらなくなって枯死するものもあり、そこから藪を枯らす=ヤブガラシという名前がついています。

また、ビンボウカズラという別名もあり、これは「庭の手入れが行き届かない貧乏な家の庭に茂りやすい」といういささかひどい理由からそう呼ばれてもいます。

§ ヤブガラシの特徴と危険性

ヤブガラシはその雑草としての繁殖力・成長力の強さもありますが、一番の特徴は夏に咲く花にあります。

ヤブガラシの花は緑色の花弁をつけた薄緑色の花托におしべとめしべが付いたものですが、問題は

この花托にあります。

花が散った後も花托はそのまま残りますが、その後この花托は薄緑色から朱色に変じていきま

す。そしてこの朱色になった花托には蜜が豊富にあるのです。

(この熟して甘くなる花托というヤブガラシの特徴は、他の身近な植物に例えるならばイチゴに近いイメージでしょうか。イチゴの赤い部分は花托が膨れて熟したものです。種の一つ一つが本来は花が実を結んで種となったものです。)

この甘い蜜を蓄えたヤブガラシの花托に、たくさんのお虫が引き寄せられていきます。時期も夏の真っ盛りな中なので、チョウや甲虫といったものからハエやアブなど更にはミツバチなども引き寄せられます。

これらの虫を取って巣の幼虫への食料に又は自身の栄養補給に、とアシナガバチやスズメバチといった肉食性の昆虫もこのヤブガラシに多数引き寄せられていきます。

神奈川県ペストコントロール協会に、時折「巣があるのかどうかわからないけれど、とにかくハチが飛び回っている。」という相談がありますが、その原因の一つにこの植物がハチを引き寄せた原因だったという事がかなりあります。

§ ヤブガラシの対策

ヤブガラシは比較的特徴のある形をしていますので、それらを見かけ次第早急に駆除・除去することが一番の対策になります。

庭や柵に繁茂しているのに気づき次第、除草剤や刈込などによって物理的・化学的な駆除が望ましいです。

またハチ駆除の相談を受け調査に訪れた際は、ヤブガラシが生えているか常に意識する必要があります。

さらには、自宅あるいは庭や周囲にヤブガラシが生えているお客様には、このような植物が虫を引き寄せる原因になることを教えて上げ、これらの駆除・除去がハチをはじめとした防虫効果に役立つことを教えてあげることが大切かと思われまます。

